

2017年1月4日

## 早河洋会長兼CEO 2017年「年頭挨拶」(要旨)

テレビ朝日グループの皆さん、明けましておめでとうございます。年末年始を休めた方は、ご家族と一緒に去年の疲れを癒して、新たなこの一年に向けて英気を養うことができたのではないかと思います。

その一方で、年末年始も休むことなく働いて頂いた皆さん、本当にお疲れ様でした。年明け早々も新たなクールの始動で忙しいかと思いますが、必ずどこかで充電はして頂きたいと思います。

皆さんの奮闘のおかげで、2016年の年間視聴率は全日とプライムが2位、ゴールデンが民放2位を確保いたしました。また、三が日平均はゴールデン15.8%、プライム15.5%と圧倒的なトップで、痛快なスタートを切ることが出来ました。特に元日の「芸能人格付けチェック！これぞ真の一流品だ！2017お正月SP」、それと「相棒 season 1 5 元日スペシャル」、この2つでゴールデン・プライムが19%台と断トツの年の始めでありました。

私が年頭挨拶するのは今年で8回目となります。一年の計は元旦にありと言われまして、何事も始めが肝心という精神に基づいて、これまで様々なことをお話してきました。夢や希望、理想、経営理念、方向性や目標などを毎年皆さんに訴えてきました。皆さんの心のどこか届いて浸透してきたか、これは忸怩たる思いがあります。

今年はその定型・定番のような挨拶はやめて、具体論をお話ししたいと思います。それはタイムテーブルの改革についてです。

1年前の年頭挨拶で私は、「新しい時代のテレビ局」を目指そうと訴えました。いまやテレビはインターネットの世界的な潮流の中に存在し、その影響を強く受けているので、その状況に向き合い、克服していく。つまり「新しい時代のテレビ朝日」を構築しなければならない、と申し上げました。先行する形でサイバーエージェントと始めた AbemaTV は、すでにその一端を担う可能性を示しています。

テレビの仕事の大元はタイムテーブルです。去年8月、編成幹部25人と箱根合宿を行いました。私が参加するのは異例のことですが、視聴率向上についていろいろな角度から議論し、タイムテーブルを改革することで一致しました。ここまでの作業で固まった骨子を具体論としてお伝えします。

まずは報道です。4月に土曜日、日曜日の夜9時に1時間のニュース・情報番組を新設します。これで月曜日から日曜日のゴールデン・プライム帯にニュース番組が並ぶ独創的なタイムテーブルとなります。

毎年毎年の強化策、関係スタッフ・出演者の奮闘で午前帯のベルト番組がトップレベルになり、「報道ステーション」はじめ朝から夜までの5つのニュース・情報番組はいまや視

聴者から最高の評価を受けています。それを週末まで拡大し、不動のものにする戦略です。地球温暖化による異常気象、地震、火山噴火、災害列島と言っても良いような現実に対応して、ライフラインとしての責務をまず果たします。視聴が急増している AbemaNews の CNN 化を目指し、地上波との中継連動を積極的に行うなど報道全般を徹底強化します。この土日のニュース枠増設は午後にもプレスリリースします。

続いて、ドラマ枠の増設です。倉本聰さんが一昨年私に「ゴールデンは若者向けの番組ばかり、シニア層向けのシルバータイムをつくるべきではないか」と提案されました。この構想を受け入れて、「やすらぎの郷」というドラマを“帯ドラマ劇場”としてデイトタイムに放送枠を設定します。壮大な実験とも言えますが、すでに収録・ロケに入っています。

これに加えて、ヤングターゲットのドラマ枠を年末に3本編成しましたが、1月から新たなAKB48のドラマ「豆腐プロレス」にも挑戦します。また、近い将来には1時間枠を新設する計画で、企画開発プロジェクトをスタートさせます。

バラエティは、視聴者から一定の評価を得ていますし、現場も頑張っていますが、爆発力をもってタイムテーブルを引っ張る番組がほしいところです。番組審議会のクリエイターの皆さんが指摘されているように、本気度いっぱい、ある意味命がけの挑戦的な番組や世界・地球規模のスケール感のある企画を開発します。いずれもすぐには成功しないかもしれませんが、多少の失敗には目をつぶり、強い信念をもって我慢強く制作に臨みます。

タイムテーブルの改革はこの4月、10月改編を経て、開局60周年期間の2018年から2019年には完成形にしたいと考えています。

きょうはテレビの基盤ともいえるタイムテーブルの話、それも報道、ドラマ、バラエティ分野に敢えて絞りましたが、我々の本業の強化こそが躍進の鍵を握っているからです。

これ以外の様々な戦略は目下、2017年度から2020年度の新しい経営計画の中で議論が進んでいます。来月には内外に発表しますが、12月のプレゼンテーションでは「新しい時代のテレビ局・テレビ朝日360°」が基本のキャッチフレーズに内定しました。地上波、BS2K4K、CS、インターネット、メディアシティ、リアルイベント、これらをぐるりと360°見渡しながら戦略的にコンテンツを企画・制作・編成・展開するという考え方で、もう一つは報道・ドラマ・バラエティ・スポーツ・アニメ・映画・ゲーム・VRなど新旧全分野を視野に、個別にあるいは連動しながら、クリエイティブな活動を行うという意味です。

当然経営資源を集中的に投下します。「人」についてはここ2年思い切って60人の中途採用を実施しましたが、さらに継続して採用に踏み切ります。加えてAbemaTVの編成・制作の仕事に多くのグループ会社が参加しているように、グループ・系列の力を結集して重点番組に投入します。「予算」については、タイムテーブルの改革で番組制作費に重点投下するので、一定期間利益圧迫要因になりますが、ここが勝負どころでありますのでためらいません。新しい経営計画「テレビ朝日360°」は4月スタートの4カ年計画としますが、できるだけ早い時点でまず売上高3,000億円は達成したいと考えています。

経営計画のゴールを視聴率イメージとしていけば、10月クールのような出来栄え、つまり5つのベルト番組が元気で、ドラマも15%級が2本以上、サッカーや野球、フィギュアなどスポーツ中継が爆発し、これにバラエティが復調してくれる、そのようなイメージでしょうか。

今日は一部しかお話しできませんでしたが、このタイムテーブルが完成すれば、ダイナミズムのある独創的なテレビ局として、新しい時代にも視聴者の支持を得られるのではないかと。私はそう確信しています。独創的な試みといえば、AbemaTVは早くもこの4月に一周年を迎えます。この年末年始も1200万ダウンロードを達成し、予想を超えた視聴数になっていますが、事業としてはまだ道半ばです。さらにコンテンツ、チャンネルを強化し、アドタイザーの評価も得なければなりません。AbemaTVも「テレビ朝日360°」の重要なメディアになるよう全力で支えていきます。

新しい経営計画「テレビ朝日360°」を成功させ、テレビ朝日グループが将来にわたって人々から求められる存在でありつづけられるよう、グループ一丸となって、一緒に汗をかいていきましょう。

ご清聴ありがとうございました。

\*視聴率は ビデオリサーチ調べ・関東地区

以上